

引き続き、「複」都構想に対する大阪市内で都市計画や建築を学んでいる大学院生たちの意見を紹介する。学生は「複」都構想は、ただ国の機能を分散するだけの政策ではなく、これからの日本社会をより豊かなものにするための行政システム全体の更新を視野に入れた重要な取り組みであると認識したようだ。結果として日本全体がよりバランスよく発展し、「日本全体で日本を動かしている」という感覚が国民一人ひとりに共有されるのではないか、全国の都市に住む人々が国の意思決定や

社会の動きとより近い距離で関わることで、政治や行政を自分ごととして捉えられるようになるのではないかと期待する。

興味深い指摘として、首都機能の地方への分散は、東京由来の都市課題が基準となりがちな政策形成を是正し、地域の多様

性に即した制度設計を促すという点で、民主主義的価値の観点からも意義があるとする意見があった。今日、電子決裁、オンライン会議、クラウド基盤などデジタル技術が高度に普及し、地理的制約は行政運営の本質的条件ではなくなりつつある。既に地方生活や都市と地方の多拠点生活は現実のものとなり、「みんなが一つの場所に集まらなくても成り立つ社会」に移りつつある。

ある学生は、リニア中央新幹線の駅が設置される街の出身であった。その学生にとって中央省庁をその業務に関連深い地方都市を受け皿として移転させるとする提案は非常に現実的かつ興味深いものであったという。リニア中央新幹線で時間距離が縮まる未来を考えると、複数の

都市が役割を分担する国家像は十分に現実的であり、本来の「強い国土」の姿だと考えていた。もはや将来的には一極集中を維持する「変わらないこと」のリスクの方がはるかに大きく、首都機能の分散は日本全体にとっては大きなチャンスになり得る。

に仙台、名古屋、広島などはその周辺地域の中心地として活性化しており、これ以上の活性化を、その地域に住んでいる人が望んでいるかと懸念している。

学生たちには「複」都構想に対する批判的な意見も求めた。国家機能の分散は膨大なコストを伴ったため、財政逼迫が続く現在、数兆円規模の移転計画を進めることは現実的ではないとの意見があった。まずは東京の防災力強化に投資し、一極集中のリスクに対して現実的な対策を講じるべきではないかと指摘した。

若い人たちにとっても文化都市「東京」の魅力は根強い。既に

従来から指摘されていることであるが、政策決定や危機管理の場において、対面コミュニケーションは重要であり、深い信頼関係の構築や質の高い合意形成には、日常的な対面での打ち合わせが不可欠である。首都機能の移転に伴う多額のコストに対して、国民の理解を得るためには、災害リスクの低減、地方の経済効果などを具体的に試算し、説明責任を果たすことが必要との現実的な意見もあった。

若い人たちと一緒に実現可能性の検証と制度設計の精緻化を図っていきたい。

（誠）

## 続「複」都構想 下

### 建設 論評

